

環境報告書 2015



平岡織染株式会社

目次

1. ごあいさつ	3
2. 会社概要	4
3. 編集方針	4
4. 環境基本方針	5
5. 環境中期計画	6
6. 環境保全活動の経過	7
7. 環境負荷の全体像	8

【事業活動における環境負荷】 * 2014年度実績

8. 環境負荷低減への取り組み	9
-----------------	---

【PRTR 対象物質への取り組み】

【大気汚染防止への取り組み】

【水質汚濁防止への取り組み】

【二酸化炭素排出量削減への取り組み】

【産業廃棄物削減への取り組み】

【P F O A に関する取り組み】

9. 環境保全をベースに生まれた新製品	13
---------------------	----

【製品名：不燃シリーズ クリアライトロン】

1. ごあいさつ

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

2012年3月にISO9001:2008を取得してから早3年が過ぎ、今年3月に更新時期を迎え、2月に外部審査機関による更新審査を受け、承認されました。本年度中に、ISO9001規格自体の改訂が予定されています。数年をかけて新たな規格に対応すべく、今まで以上に実態に即したルールと目標値を明確にし、具体的な施策と実行計画を推進するように指示したところであります。

この三年間を振り返ってみます。2013年に経済政策としてあげられたアベノミクスは、「財政出動」「金融緩和」「成長戦略」の3本の矢で長期デフレを脱却し、株価は2倍超になり、企業の成績も過去最高水準に回復してきましたが、目指す好循環の輪にはまだ届いていないとの評価です。先日、新たな経済施策としてアベノミクス第2ステージ、新たな三本の矢（目標）が追加されました。好循環を生み出すため、日本社会が抱える構造的課題に挑戦する姿勢を政府が示したかたちです。大いに期待し、また経営にどう盛り込むべきかを考えたいものです。

一方、環境に関して見てみますと、地球温暖化、資源の枯渇、生物多様性の減少などが進み、私たちが存続していく上で重要となる環境という基盤が崩れはじめています。国内だけを見ても、温暖化の影響で、想像を超えた異常気象が発生し、今までのインフラでは防ぎきれない災害が起き始めています。また、人口減少による地方の過疎化に伴って、野生化した外来種動物が、私たちが住む社会にまでその影響を及ぼす出来事が散見されるようになってきています。日本の環境基盤になる新たな社会インフラの整備が必要になってきていると実感しております。

弊社では、新たな社会インフラの整備の一躍を担えればと考え、ここ1～2年で生産部門に新規設備を導入致しました。また、よりよい環境を生み出すために、環境の観点から現有設備を見直し、設備改良を具体的に進めております。

近年、産業界で頻発しています不祥事を見ますと、データの改ざんや不正会計などのコンプライアンス違反が目立っていますが、他人事ではありません。弊社も、自浄力を磨き、正しくあるべき姿をひたすら追求する会社を目指してまいります。

創業113年を迎え、これからも未来に貢献できる繊維資材を新たに開発し、世の中に送り出して行きたいと考えております。

代表取締役社長 平岡 義章

2. 会社概要

名 称	平岡織染株式会社
社 長	平岡義章
資 本 金	48,438千円
売 上 高	9,824,865千円(2015年3月期)
創 業	明治35年8月(1902年)
会 社 設 立	昭和10年2月
本 社	東京
支 店	大阪
事 業 所	草加事業所(埼玉県)、滋賀ターポリン工場*(滋賀県)

*ターポリンは以下(タ)に省略して記載する。

3. 編集方針

【報告書の対象期間】

対象期間 2014年4月1日～2015年3月31日

【報告書の対象範囲】

本社、支店、2事業所(草加事業所、滋賀(タ)工場)

4. 環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する法規制及び、地方自治体との協定を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。特に、工場排気、排水、土壌の汚染に留意し、質の維持管理・向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 全社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。

5. 環境中期計画

弊社では、環境に配慮した企業経営を充実させるため、2013年6月に第三次の中期計画を策定。2012年度の実績データを基準として、達成年度を2017年度と定め、次の二つの目標を掲げて、取り組んでおります。

【達成目標年度：2017年度】

二酸化炭素原単位排出量 : 3%削減
産業廃棄物原単位処分量 : 3%削減

また、草加事業所では、埼玉県地球温暖化対策推進第一次計画期間（2011～2014年度）において、二酸化炭素基準排出量の6%削減に取り組んで参りました。その結果、各年度とも6%削減を達成することが出来ました。

2015年度から第二次計画期間（2015～2019年度）がスタートしています。同期間における目標値は、二酸化炭素基準排出量の13%削減と増えたことから、より一層の削減に努めて参ります。

6. 環境保全活動の歩み

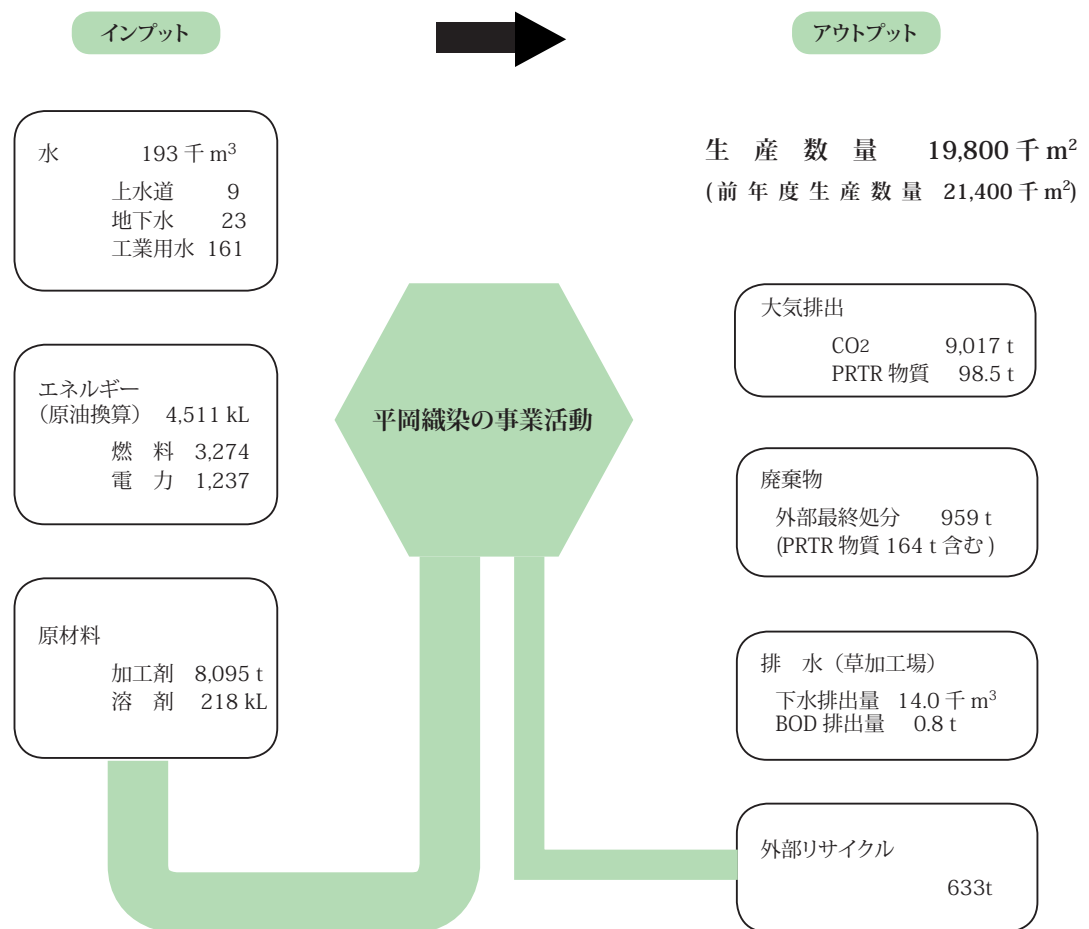
2002.12	滋賀（夕）工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション（550kW）を導入設置、稼働開始
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置（150m ³ /分）を導入設置、稼働開始 ※ VOC 大気放出量の大幅削減に貢献
2008.11	滋賀（夕）工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、同工場の重油使用を全廃
2009.03	滋賀（夕）工場にCO ₂ 排出量の削減のため、新熱処理機を設置
2009.04	全社一丸となった環境への取組を強化するため、「環境連絡会議」を設置
2010.12	草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、全社の重油使用を全廃
2011.03	滋賀（夕）工場、新熱処理機の本格稼働開始
2012.05	滋賀（夕）工場、湿式電気集塵機（排煙処理装置）追加設置・稼働開始
2013.05	滋賀（夕）工場、脱臭装置新規設置・稼働開始
2014.10	草加事業所事務所・研究所棟の蛍光灯全てをLEDタイプにリニューアル

7. 環境負荷の全体像

【事業活動における環境負荷】*2014年度実績

弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

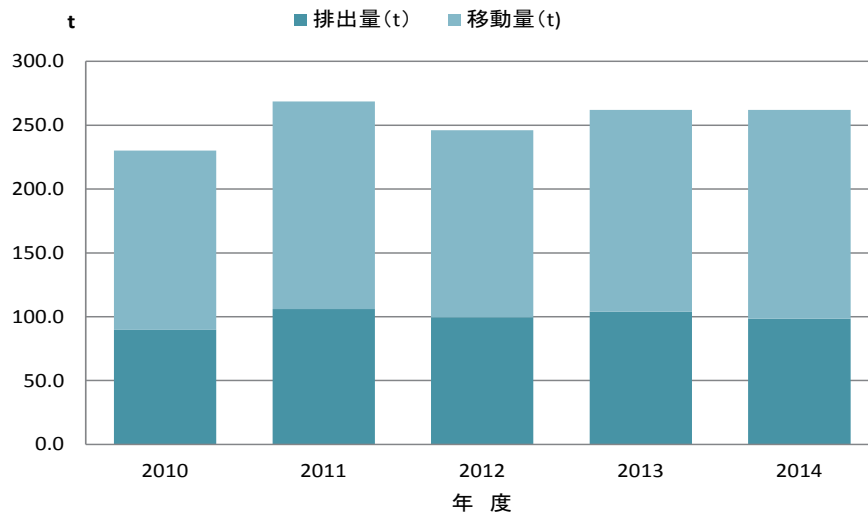
2014年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



8. 環境負荷低減への取り組み

【PRTR 対象物質への取り組み】

PRTR届け出排出移動量



2014年度は前年度と比較して排出量が約5.2%減少し、移動量が約3.5%増加しました。

【大気汚染防止への取り組み】

SO_x（硫黄酸化物）排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化（A重油全廃）により、2011年1月からゼロとなっています。

ばいじん排出量も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。

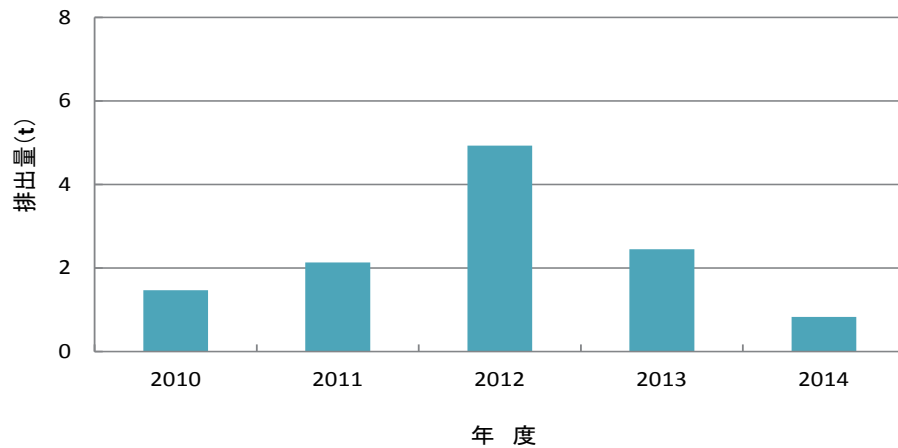
【水質汚濁防止への取り組み】

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加工場のみです。工場排水を行っていない滋賀(タ)工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加工場のみ水質汚濁防止への取り組みを行っております。

排水が発生するのは主に染色工程で、長年にわたり、加圧凝集浮上方式による施設で処理し、公共下水道へ放流しています。

2014度は、綿帆布生産の外部委託に伴い、染色排水量が激減したため、BOD排出量も極端に減少しています。尚、草加市下水道条例で定める下水排除基準に対しては常に適合しており、安定した水質を維持しています。

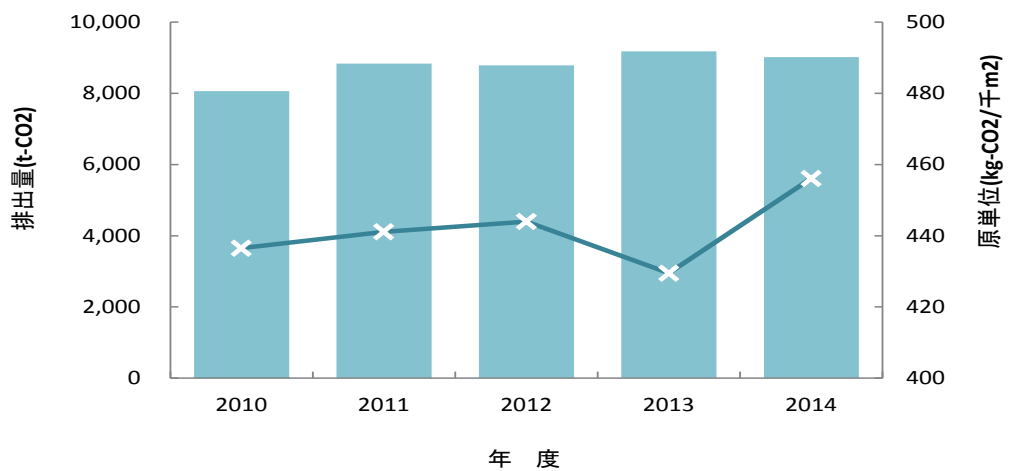
BOD排出量



【二酸化炭素排出量削減への取り組み】

2014年度のCO₂排出量は、前年度比1.7%減の9017t-CO₂でした。然し、環境中期計画の「原単位排出量(生産量当たり)について、2017年度までに2012年度比3%削減」に対しては、2.7%増となりました。滋賀(夕)工場の生産量が大幅に減少したことに伴い、生産効率が低下したことと、エネルギー消費量の多い製品の構成比率が増加したことが主な原因です。今後は更なる生産効率向上と、成果主義の省エネ活動を通じて、CO₂排出量の削減に取り組んで参ります。

二酸化炭素排出量

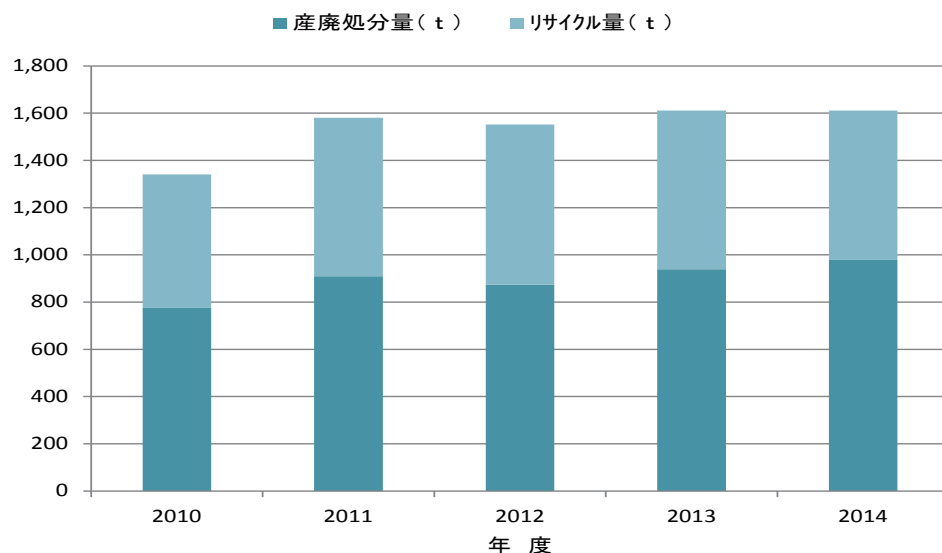


【産業廃棄物削減への取り組み】

2014年度の産廃処分量は、前年度比4.3%増の979tでした。また、原単位処分量は、前年度比12.6%増の49.5kg/千m²となりました。

リサイクル率は39.3%でここ数年40%台(2013年度は41.7%)と安定しておりましたが、僅かに下回りました。

産業廃棄物量



【PFOAに関する取り組み】

弊社は、フッ素樹脂メーカーの取り組み※に呼応して、2013年度当初より、PFOAリスクの無い資材への切り替えを進めました。

PFOAリスクが懸念される在庫資材は2013年度上期に消費を完了し、PFOAリスクの無い資材への切り替えが終了しました。

※ フッ素樹脂メーカーは、以下の理由により、PFOAの製造・使用・販売ならびにC8テロマー（ペルフルオロアルキル基の構造を有する化合物）を原料とする撥水・撥油剤製品の製造・販売を全面的に取りやめました。

- ① PFOA（ペルフルオロオクタン酸およびその塩類）が化審法の第二種監視物質に指定されたこと
- ② POPs条約（ストックホルム条約）の指定対象物質になったこと
- ③ PFOAの一部の物質が化審法の第一種監視化学物質に指定されたこと

9. 環境保全をベースに生まれた新製品

【製品名：不燃シリーズ クリアライトロン】

- 厚生労働省による室内空気汚染に係わるガイドライン対象13物質に対応した製品で特に膜天井等の室内用途に最適です。
- フタル酸系可塑剤は使用していません。
- 防災製品の認定を取得しています。(F-19124、F-26312、F-25231)

★ 膜天井施工例





不燃シリーズ クリアライトロン®
 [厚生労働省指定室内化学物質 13 物質クリア]

不燃 防災 日本化学工業協会 認定 日本化学工業協会 認定 RoHS 指令適合 MADE IN JAPAN

V-2000-1 吸水性防止 防汚防止 帯電防止

厚み：0.40mm 質量：576g/m² 規格：196cm × 50m(乱)巻

【色相 (透光率)】

半透明 (34%)	アイボリー (7%)	グレー (0.5%)

V-2000-1 遮光ホワイト 吸水性防止 防汚防止 帯電防止

厚み：0.40mm 質量：576g/m² 規格：204cm × 30m(乱)巻

【色相 (透光率)】

ホワイト (0%)

V-2000-NF カラータイプ 吸水性防止 PVC 耐汚 帯電防止

厚み：0.40mm 質量：570g/m² 規格：102cm × 50m(乱)巻

【色相 (透光率)】

ホワイト (6.31%)	ベージュ (0.53%)	ブラウン (0.03%)	バーガンディ (0.66%)	ブリティッシュグリーン (0.00%)	ブラック (0.00%)

※ガラス繊維は折り曲げに弱い性質があります。縫製時及び取り付けの際は、折り曲げ等に十分に注意してください。

防災シリーズ [厚生労働省指定室内化学物質 13 物質クリア]

防災 RoHS 指令適合 MADE IN JAPAN

2000-SS [受注生産]

厚み：0.42mm 質量：490g/m² 規格：188cm × 50m(乱)巻

【色相 (透光率)】

グレー (5.8%)

HIRAOKA 膜天井ラインナップ

品名		不燃シリーズ クリアライトロン*			防災シリーズ
		V-2000-1	V-2000-1 遮光ホワイト	V-2000-NF	2000-SS
物性	厚み (mm)	0.40	0.40	0.40	0.42
	質量 (g/m ²)	576	576	570	490
	引張強さ (N/3cm) W/F	2200/1800	2200/1800	2200/1800	980/882
	伸び率 (%) W/F	4.4/3.7	4.4/3.7	4.5/3.5	26/30
	引裂強さ (N) W/F	110/85	110/85	75/70	284/264
規格		196cm×50m (乱) 巻	204cm×30m (乱) 巻	102cm×50m (乱) 巻 ^{※1}	188cm×50m (乱) 巻
材質		基布: グラスファイバー100%			基布: ポリエステル100%
		樹脂: ポリ塩化ビニル (PVC)			
透光率		半透明 34% アイボリー 7% グレー 0.5%	ホワイト 0%	ホワイト 6.31% ベージュ 0.53% ブラウン 0.03% パーガンディ 0.66% プリティッシュグリーン 0.00% ブラック 0.00%	グレー 5.8%
国土交通大臣認定品		不燃材料認定番号: NM-3829	不燃材料認定番号: NM-3829	不燃材料認定番号: NM-3095	
(公財) 日本防災協会認定品		防災製品番号: F-19124	防災製品番号: F-26312	防災製品番号: F-25231	防災製品番号: F-26207

*透光率は JIS Z 8722 試験方法にて測定した数値です。

*表面抵抗値 10¹¹Ωレベルの帯電防止を施しております (V-2000-NF は帯電防止を施していません)。

*別注色はロット 2000m より承ります。

*数値は測定値であり、保証値ではありません。

※1 別注で 2m 仕上げ対応可能です。

注意事項

- 本カタログに記載している製品は日本国内向けのものです。
- 使用前に必ず品名・品番・色相・ロット No.・規格を確認してください。
- 保管は、高温・多湿を避け、冷暗で平坦な場所に置き、変形するような積み方はしないでください。
- 長時間保管されていた製品は、使用前に物性低下の有無を確認してください。
- 極低温・極高温向けには設計されておりませんので、これらの用途に使用の場合は必ず弊社まで相談してください。
- 熱融着による接合の際は、臭気が発生することがありますので、必ず作業場を換気してください。
- 高周波ウェルダーで溶着する際は、溶着部分に導電性を有する物質が付着していると、まれにスパークを起こすことがありますので、ウェルダーバー及び膜材料の溶着部分に付着物の無い状態で溶着してください。
- 建築基準法第 37 条第二号に関する認定番号 (建築材料の品質) を取得しておりません。テント倉庫、膜構造建築物の屋根、外壁には使用できません。
- 縫い込みロープ、ハトメ部分の縫製時には必ず補強布を内側に当ててご使用ください。
- 洗浄する場合は、中性洗剤を浸した柔らかいスポンジ等でふき取り、十分に水洗いし乾燥してから使用してください。
- サンプルの色相は、出荷時の現物の色相と若干違いがある場合があります。予めご了承ください。
- 透光差がありますので、同一縫製品には、同一ロット No. の使用をおすすめします。
- 廃棄される際は、下記の方法で処理してください。
 - 廃棄物処理法、都道府県条例等に従ってください。
 - 許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。
- 質問、問い合わせ、より詳しい資料が必要でしたら、代理店または弊社まで連絡してください。
- 本カタログの記載内容は改善のため事前に予告なしに変更することがあります。



平岡織染株式会社 SINCE 1902

東京 〒110-0011 東京都台東区三ノ輪 1-21-7
TEL. 03-3876-2111 (代表) FAX. 03-3875-5627

大阪 〒541-0044 大阪市中央区伏見町 4-2-14
TEL. 06-6209-7000 (代表) FAX. 06-6209-7011

URL <http://www.tarpo-hiraoka.com/>

2015年2月印刷 3000